

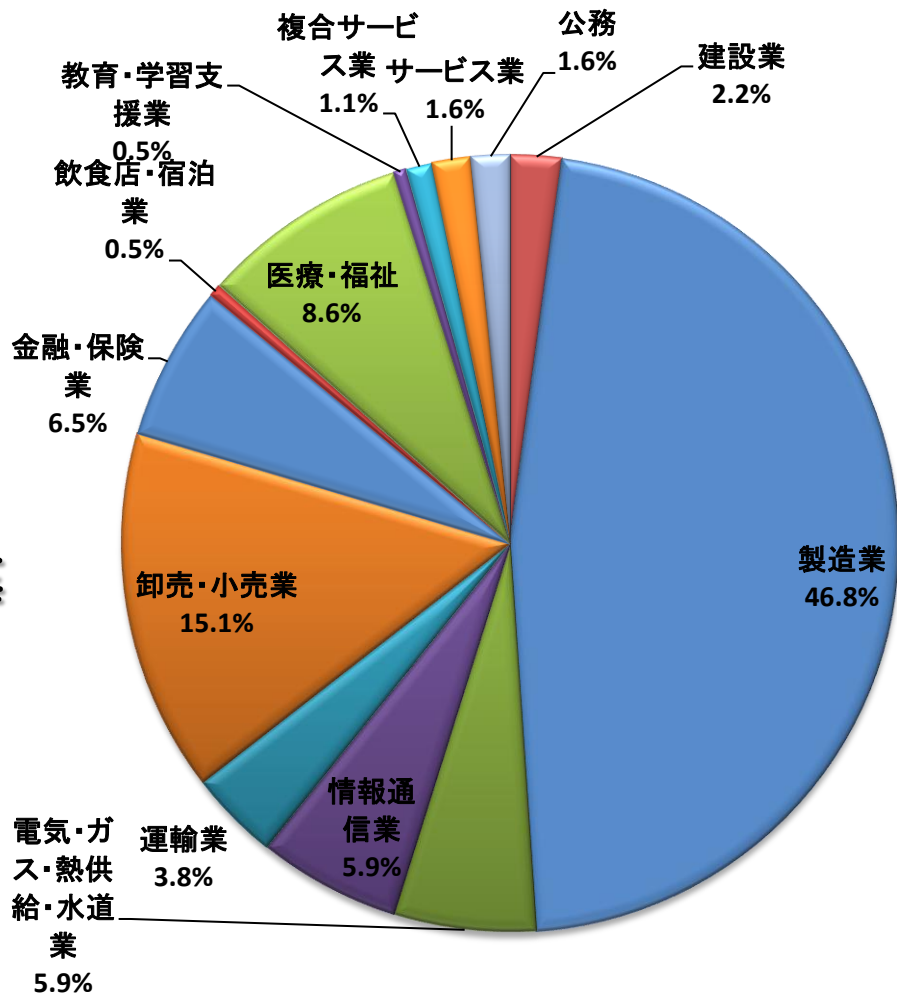
調査対象となった業種内訳 (186事業場)

製造業：46.8%

卸売・小売業：15.1%

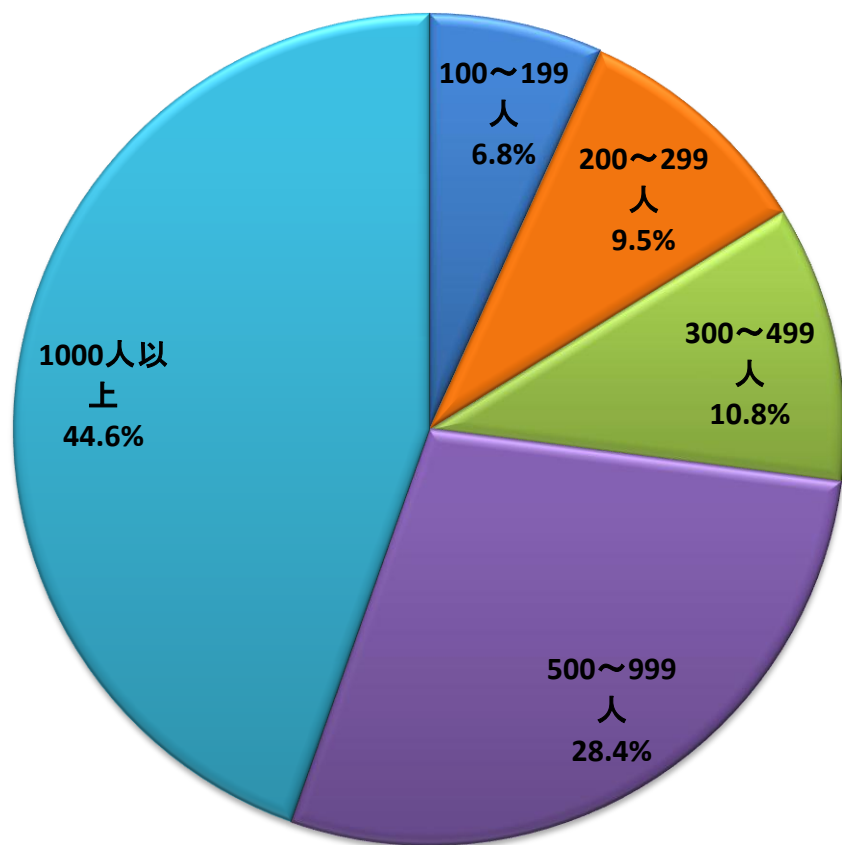
医療・福祉：8.6%

金融・保険業：6.5%等



回収率：81.1%
(150件/186事業場)

事業場の規模（従業員数内訳）



- 1,000人以上：44.6%
- 500~999人：28.4%
- 300~499人：10.8%
- 200~299人：9.5%
- 100~199人：6.7%

※回答が得られた150カ所のうち、74事業場の従業員の内訳を示す

アンケートの質問内容

I.産業保健スタッフとして、当該労働者の現在の状況に関して、医師からの説明で十分に理解し把握しておきたいと思う項目

II.産業保健スタッフとして、当該労働者の就労（復帰）に際し、事業場の安全衛生、作業環境に関して調整・解決しておきたい項目

III.産業保健スタッフとして、当該労働者の就労（復帰）に際し、生活状況において家庭や個人で解決に努めてもらいたいと思う項目

IV.事業場の一員（産業保健スタッフ）として、当該労働者の職場復帰に際し、懸念があり、事前に解決しておきたいと思う項目

I. 産業保健スタッフとして、当該労働者の現在の状態に関して、医師からの説明で十分に理解し把握しておきたいと思う項目を重要度の高い順に5つお答え下さい。

疾患の種類：（例）うつ病、不安障害、身体化障害などの診断名

主な症状：（例）不眠、抑うつ気分、全般的な意欲低下、焦燥感など

症状の程度：軽症、中等症、重症など（ICD-10に則して）

服薬の状況：薬剤名と服用量、服薬に伴う眠気やふらつき等副作用の有無など

睡眠の状況：入眠困難の有無、熟眠感の有無、早朝覚醒の有無など

生活全般における意欲と興味・関心の保持：最近2週間の持続状況についての評価

気分・不安（心理状態）：抑うつ、不安等の状況について簡易心理検査による評価

注意集中力：日常生活動作、問診、簡易前頭前野機能テスト等による評価

他の身体所見：（例）心身の緊張、消化器症状、頭痛・めまい、腰痛など筋骨格系症状

II. 産業保健スタッフとして、当該労働者の就労（復帰）の際に、事業場の安全・衛生、作業環境に関して調整・解決しておきたい項目を重要度の高い順に5つお答え下さい。

作業環境：（例）高・低温、湿度、高所、VDT、有害物質取り扱い状況、騒音など

勤務時間と適切な休養の確保：勤務形態の規則性、出張、超過勤務等の状況

職業性ストレスの程度：職業性ストレス簡易調査票等のチェックリストによる評価

就労に関する意欲と業務への関心：産業保健スタッフとの面接による評価・確認

段階的復帰、リハビリ出勤制度に関する理解と同意：本人と事業場との意見調整

職場の対人関係における不安の程度：産業保健スタッフとの面接による評価・確認

治療と職業生活の両立についての支持・理解者（上司、産業保健スタッフ等）の存在

安全な通勤の可否

疲労蓄積度：自身および家族から見た「仕事の疲労蓄積度チェックリスト」評価

III. 産業保健スタッフとして、当該労働者の就労（復帰）に際し、その生活状況において、家庭や個人で解決に努めてもらいたいと思う項目を重要度の高い順に5つお答え下さい。

睡眠 - 覚醒リズムの保持

適切な食習慣（栄養、アルコールなど嗜好品への依存度を含む）

適度な運動習慣

日常生活における業務と類似した行為への関心・遂行状況

経済状況と医療費・保健書類等の利用・管理状況

整容、居住環境の清潔保持

主婦業または、育児・介護などの有無と程度（ワーク・ライフバランスの保持）

生活全般における支持的な家族（配偶者等）や友人（同僚等）の存在

QOL：包括的健康度（sf8、sf36等による）

IV. 事業場側の一員（産業保健スタッフ）として、当該労働者の職場復帰に際し、懸念の可能性があるが、事前に解決しておきたいと思う項目について重要度の高い順に5つお答え下さい。

診断書病名と現症との相関についての理解（事業場側が理解できる診断であるか）

回復に併せた就労意欲の確認（病状が回復し、併せて就労意欲が高い状態であるか）

回復と業務遂行能力との相関（病状が回復し、併せて職場に順応できる状態であるか）

回復の確認と予後診断についての理解（病状が回復し、今後の見通しはどうか）

対象労働者へのコミュニケーション（接し方、人間関係上注意することがあるか）

通常の職務による疾患への影響（病状悪化や再発への影響はどの程度考えられるか）

長期休業による部署・組織全体のパフォーマンス低下（それが予測・懸念されるか）

長期休業による対象労働者の将来性（キャリア形成や勤続可否についての影響）

通勤・実務に伴い安全・衛生面での危険が回避されるか（注意力・集中力の低下などから労働災害等につながる可能性等）

自殺及び危険行為に及ぶ可能性について

表1: 産業保健スタッフとして、当該労働者の現在の状態に関して、
医師からの説明で十分に理解し把握しておきたい項目

順位		a. 特に重要	b. 重要	c. 指摘なし	d. チェックした総数(a+b)	e. 総数
1	服薬の状況: 薬品名と服用量、服薬に伴う眠気やふらつき等副作用の有無など	6	122	22	128	150
		4.0%	81.3%	14.7%	85.3%	100.0%
2	主な症状: 不眠、抑うつ気分、全般的な意欲低下、焦燥感など	36	89	25	125	150
		24.0%	59.3%	16.7%	83.3%	100.0%
3	疾患の種類: うつ病、不安障害、身体化障害などの診断名	74	44	32	118	150
		49.3%	29.3%	21.3%	78.7%	100.0%
4	症状の程度: 軽症、中等症、重症など(ICD-10に則して)	13	90	47	103	150
		8.7%	60.0%	31.3%	68.7%	100.0%
5	生活全般における意欲と興味・関心の保持: 最近2週間の持続状況についての評価	13	57	80	70	150
		8.7%	38.0%	53.3%	46.7%	100.0%
6	睡眠の状況: 入眠困難の有無、熟眠感の有無、早朝覚醒の有無など	2	58	90	60	150
		1.3%	38.7%	60.0%	40.0%	100.0%
7	注意集中力: 日常生活動作、問診、易前頭前野機能テスト等による評価	5	54	91	59	150
		3.3%	36.0%	60.7%	39.3%	100.0%
8	気分・不安(心理状態): 抑うつ、不安等の状況について簡易心理検査による評価	2	40	108	42	150
		1.3%	26.7%	72.0%	28.0%	100.0%
9	他の身体所見: 心身の緊張、消化器症状、頭痛・めまい、腰痛など筋骨格系症状	0	41	109	41	150
		0.0%	27.3%	72.7%	27.3%	100.0%

I. 医学的知見

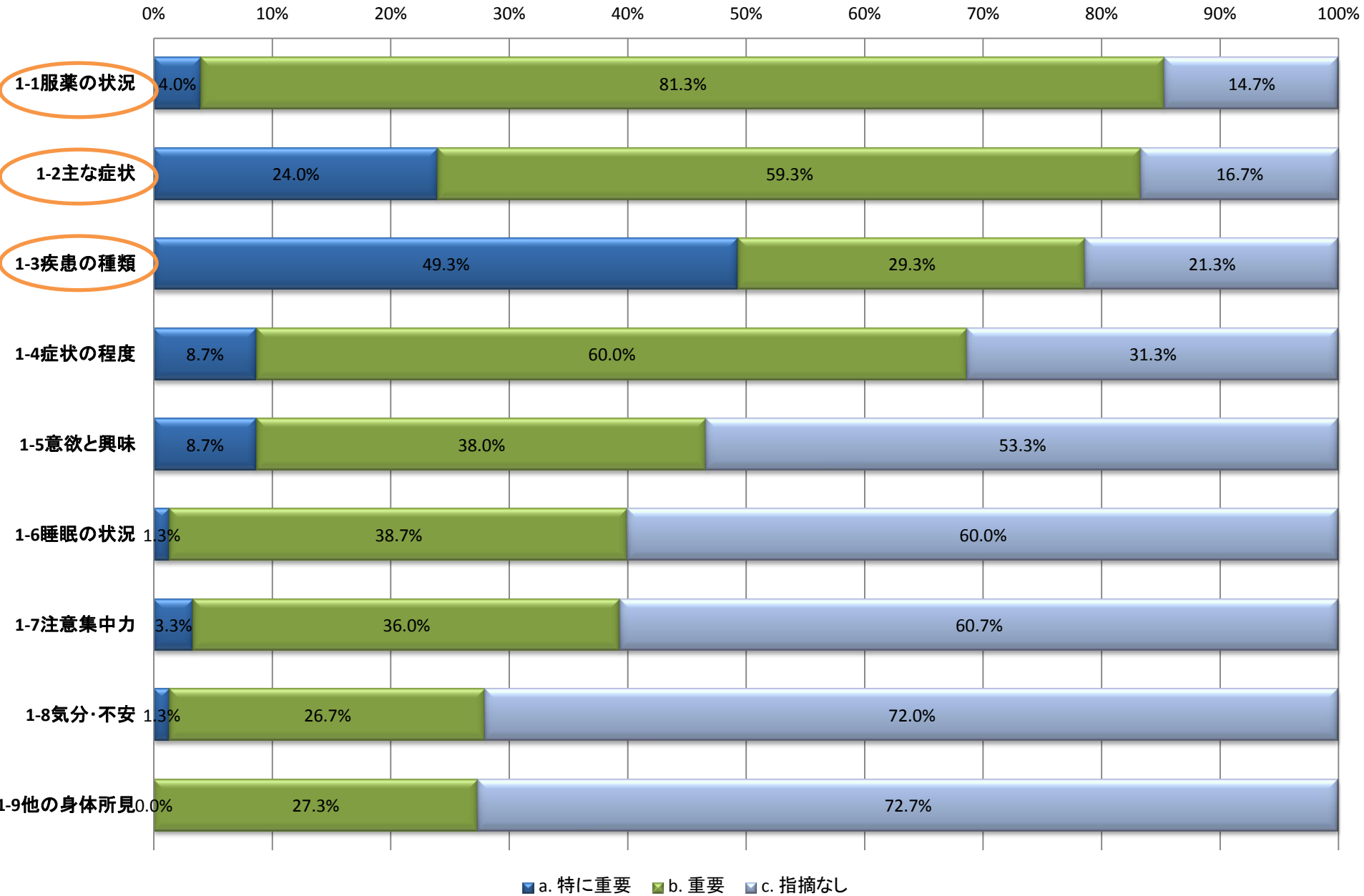


表2: 産業スタッフとして、当該労働者の就労(復帰)の際に、事業場の安全・衛生、作業環境に関して調整・解決しておきたい項目

順位		a. 特に重要	b. 重要	c. 指摘なし	d. チェックした総数(a+b)	e. 総数
1	就労に関する意欲と業務への関心: 産業保健スタッフとの面接による評価・確認	67	66	17	133	150
		44.7%	44.0%	11.3%	88.7%	100.0%
2	段階的復帰、リハビリ出勤制度に関する理解と同意: 本人と事業場との意見調査	24	105	21	129	150
		16.0%	70.0%	14.0%	86.0%	100.0%
3	勤務時間と適切な休養の確保: 勤務形態の規則性、出張、超過勤務などの状況	22	103	25	125	150
		14.7%	68.7%	16.7%	83.3%	100.0%
4	職場の対人関係における不安の程度: 産業保健スタッフとの面接による評価・確認	8	109	33	117	150
		5.3%	72.7%	22.0%	78.0%	100.0%
5	治療と職場生活の両立についての支持・理解者(上司、産業保健スタッフ等)の存在	10	103	37	113	150
		6.7%	68.7%	24.7%	75.3%	100.0%
6	安全な通勤の可否	9	43	98	52	150
		6.0%	28.7%	65.3%	34.7%	100.0%
7	作業環境: 高・低温、湿度、高所、VDT、有害物質取り扱い状況、騒音など	6	29	115	35	150
		4.0%	19.3%	76.7%	23.3%	100.0%
8	職業性ストレスの程度: 職業性ストレス簡易調査表などのチェックリストによる評価	2	21	127	23	150
		1.3%	14.0%	84.7%	15.3%	100.0%
9	疲労蓄積度: 自身および家族から見た「仕事の疲労蓄積度チェックリスト」評価	1	17	132	18	150
		0.7%	11.3%	88.0%	12.0%	100.0%

Ⅱ.安全・衛生にかかる要因

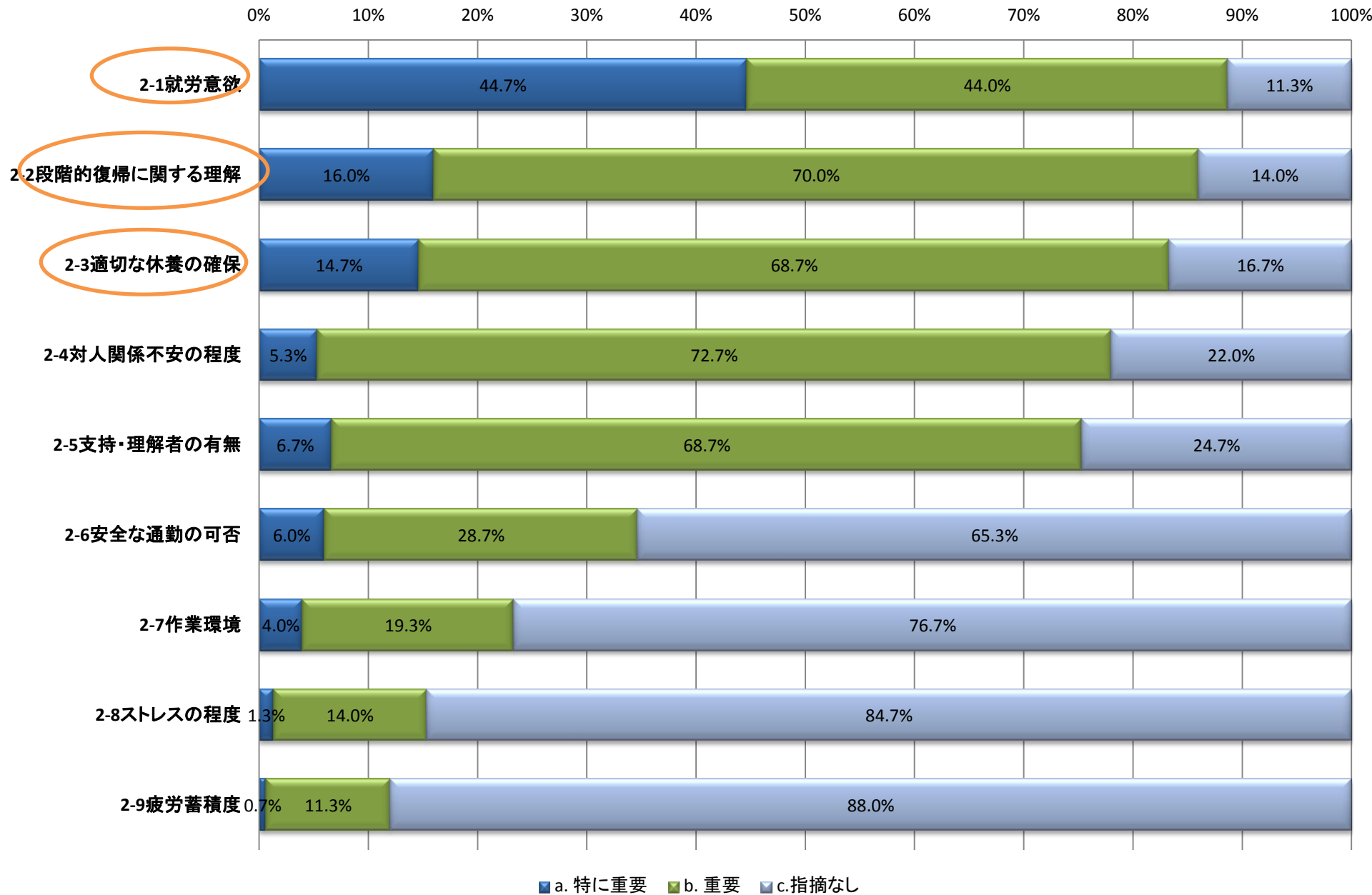
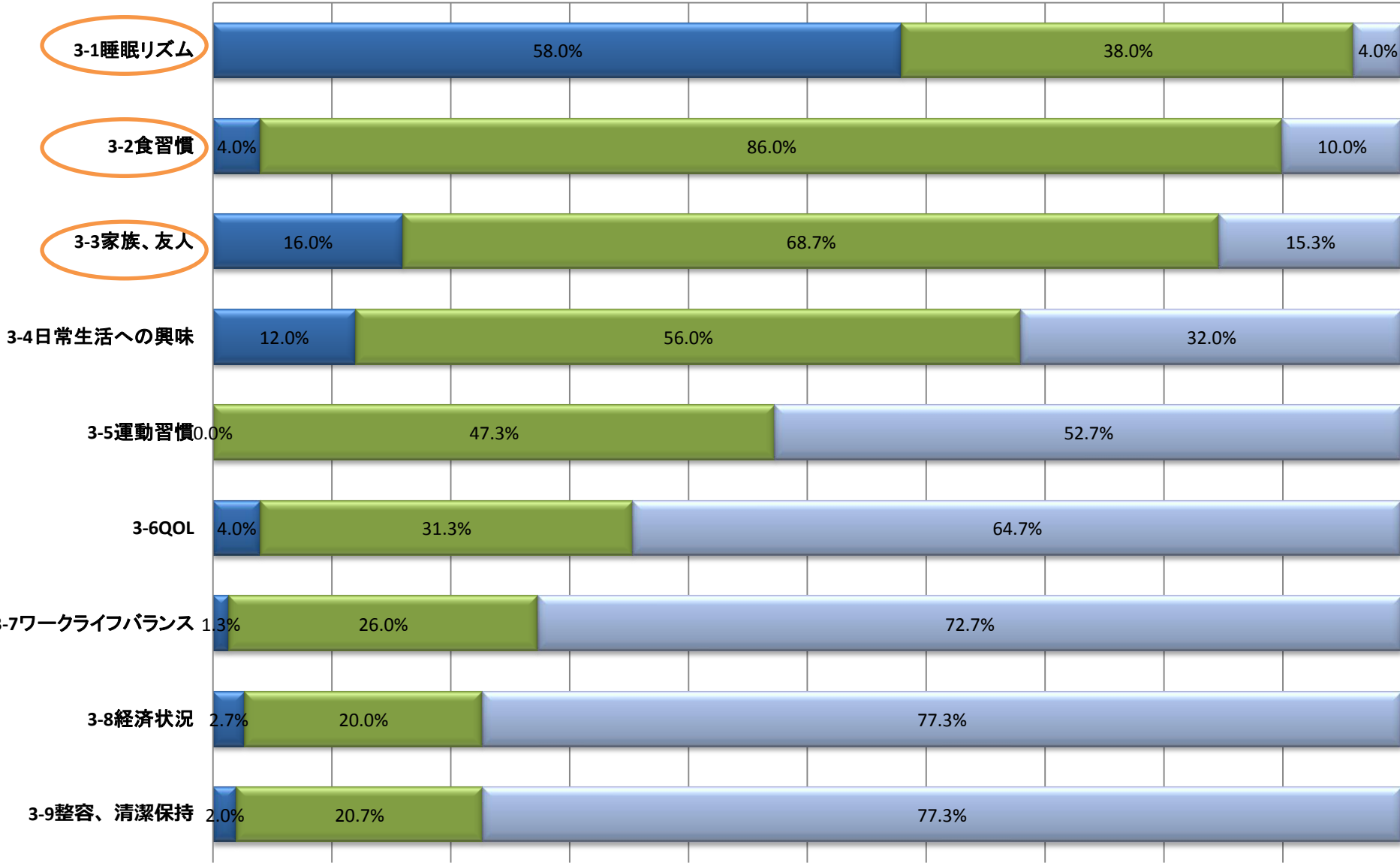


表3: 産業保健スタッフとして、当該労働者の就労(復帰)に際し、その生活状況において、家庭や個人で解決に努めてもらいたいと思う項目

順位	a. 特に重要	b. 重要	c. 指摘なし	d.チェックした総数(a+b)	e.総数
1 睡眠、覚醒のリズムの保持	87	57	6	144	150
	58.0%	38.0%	4.0%	96.0%	100.0%
2 適切な食習慣(栄養、アルコールなどの嗜好品への依存度を含む)	6	129	15	135	150
	4.0%	86.0%	10.0%	90.0%	100.0%
3 生活全般における支持的な家族(配偶者等)や友人(同僚等)の存在	24	103	23	127	150
	16.0%	68.7%	15.3%	84.7%	100.0%
4 日常生活における業務と類似した行為への関心・遂行状況	18	84	48	102	150
	12.0%	56.0%	32.0%	68.0%	100.0%
5 適度な運動習慣	0	71	79	71	150
	0.0%	47.3%	52.7%	47.3%	100.0%
6 QOL: 包括的健康度(sf8、sf36等による)	6	47	97	53	150
	4.0%	31.3%	64.7%	35.3%	100.0%
7 主婦業または、育児・介護などの有無と程度(ワーク・ライフバランスの保持)	2	39	109	41	150
	1.3%	26.0%	72.7%	27.3%	100.0%
8 経済状況と医療費・保健書類などの利用・管理状況	4	30	116	34	150
	2.7%	20.0%	77.3%	22.7%	100.0%
9 整容、居住環境の清潔保持	3	31	116	34	150
	2.0%	20.7%	77.3%	22.7%	100.0%

Ⅲ.個人・状況要因

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ a. 特に重要 ■ b. 重要 ■ c. 指摘なし

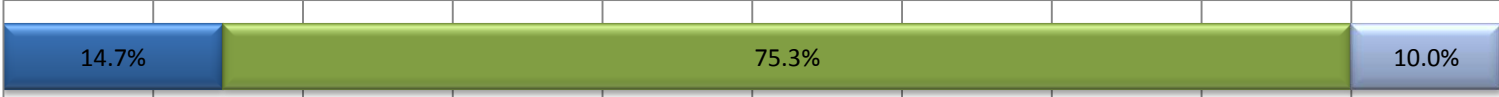
表4: 事業場側の一員(産保スタッフ)として、当該労働者の職場復帰に際し、懸念の可能性があるが、事前に解決しておきたいと思う項目

順位		a. 特に重要	b. 重要	c. 指摘なし	d. チェックした総数(a+b)	e. 総数
1	回復と業務遂行能力との相関(病状が回復し、併せて職場に順応できる状態であるか)	22	113	15	135	150
		14.7%	75.3%	10.0%	90.0%	100.0%
2	回復に併せた就労意欲の確認(病状が回復し、併せて就労意欲が高い状態であるか)	31	78	41	109	150
		20.7%	52.0%	27.3%	72.7%	100.0%
3	対象労働者へのコミュニケーション(接し方、人間関係上注意することがあるか)	10	83	57	93	150
		6.7%	55.3%	38.0%	62.0%	100.0%
4	通常の職務による疾患への影響(病状悪化や再発への影響はどの程度考えられるか)	9	76	65	85	150
		6.0%	50.7%	43.3%	56.7%	100.0%
5	回復の確認と予後診断についての理解(病状が回復し、今後の見通しはどうか)	8	76	66	84	150
		5.3%	50.7%	44.0%	56.0%	100.0%
6	自殺および危険行為に及ぶ可能性について	33	41	76	74	150
		22.0%	27.3%	50.7%	49.3%	100.0%
7	通勤・実務に伴い安全・衛生面での危険が回避されるか(注意力・集中力の低下などから労働災害等につながる可能性等)	12	60	78	72	150
		8.0%	40.0%	52.0%	48.0%	100.0%
8	診断書病名と現症との相関についての理解(事業場側が理解できる診断であるか)	31	31	88	62	150
		20.7%	20.7%	58.7%	41.3%	100.0%
9	長期休業による部署・組織全体のパフォーマンス低下(それが予測・懸念されるか)	2	22	126	24	150
		1.3%	14.7%	84.0%	16.0%	100.0%
10	長期休業による対象労働者の将来性(キャリア形成や勤続可否についての影響)	0	7	143	7	150
		0.0%	4.7%	95.3%	4.7%	100.0%

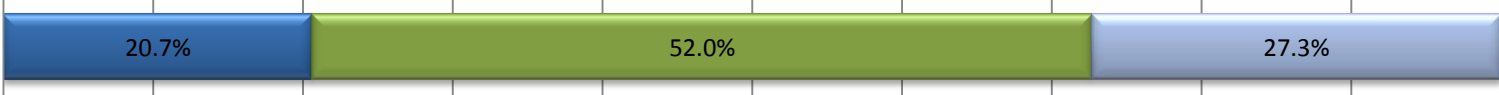
IV.事業場側の懸念

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

4-1回復と業務遂行能力の相関



4-2就労意欲の確認



4-3対象者への接し方



4-4通常職務の疾患への影響



4-5今後の見通し



4-6自殺の可能性



4-7労働災害に繋がる可能性



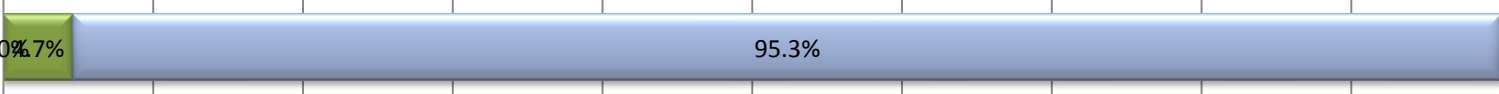
4-8診断書病名と現症との相関



4-9組織のパフォーマンス低下



4-10対象労働者のキャリア形成



■ a. 特に重要 ■ b. 重要 ■ c. 指摘なし

「両立支援」取組を行った30事例 アセスメント項目を得点化

表1 評価別点数表

評価	点数
①解決・治癒	5
②概ね解決・寛解	4
③緩和・安定	3
④動揺・不安定	2
⑤未解決	1

評価が高い順に5点～1点までの点数化を行った。

表2 各事例における I～IVアセスメント項目の得点

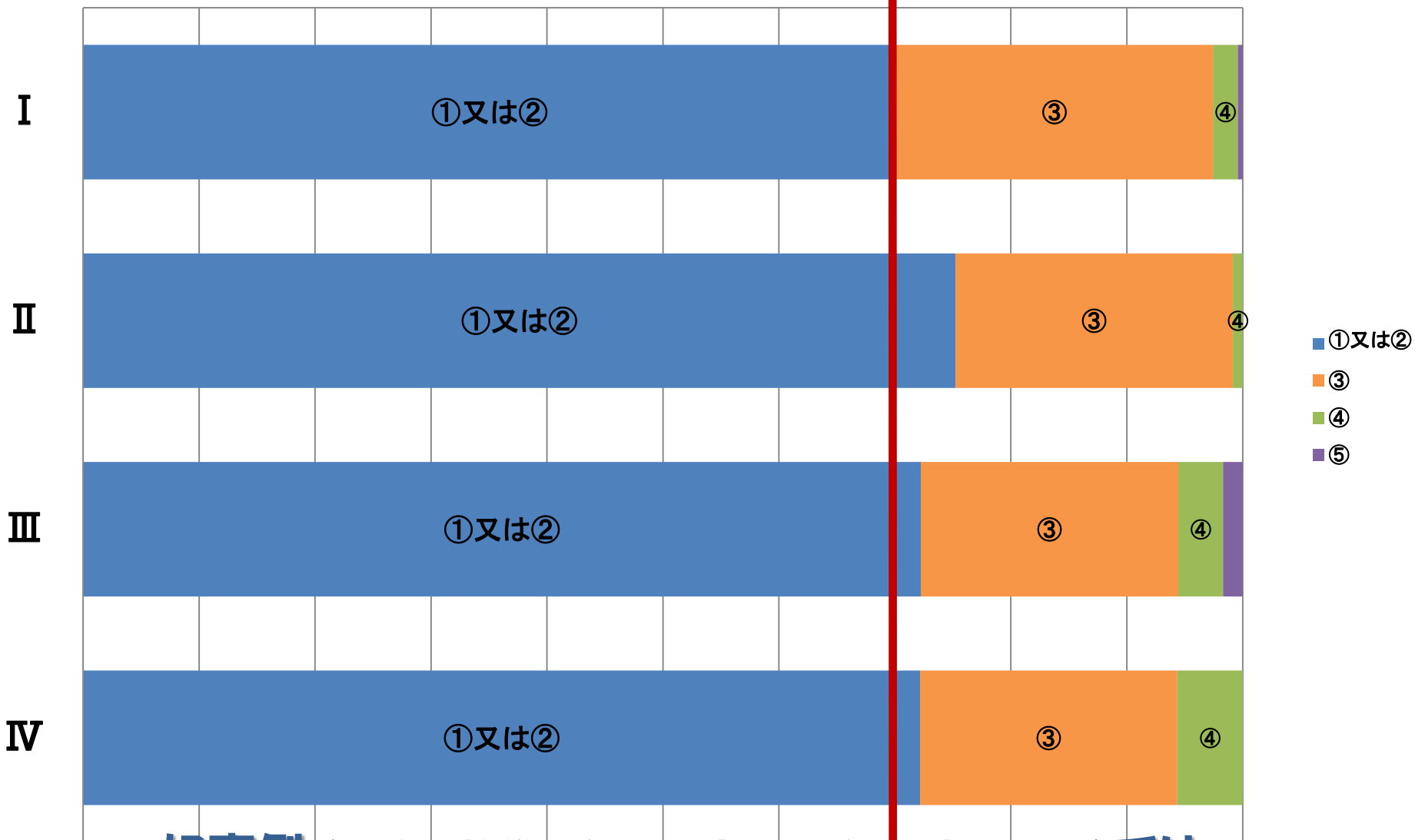
case	I 得点	II 得点	III 得点	IV 得点	total 得点合計
1	22	31	20	27	100
2	33	37	36	40	146
3	32	38	37	35	142
4	33	37	34	38	142
5	34	33	32	34	133
6	31	37	39	40	147
7	33	35	37	43	148
8	30	34	37	34	135
9	34	34	31	※	99
10	29	33	30	※	92
11	36	39	39	39	153
12	40	40	39	48	167
13	36	38	38	40	152
14	31	35	34	※	100
15	32	36	33	39	140
16	39	42	39	45	165
17	43	42	40	46	171
18	37	39	40	40	156
19	38	39	40	44	161
20	36	38	31	35	140
21	42	40	39	43	164
22	36	40	33	44	153
23	39	41	43	40	163
24	25	31	25	30	111
25	34	36	38	39	147
26	32	35	35	33	135
27	26	19	28	23	96
28	35	19	28	23	105
29	20	10	17	10	57
30	39	42	39	42	162
得点総計	1007	1050	1031	994	4082
平均	33.57	35.00	34.37	36.81	136.07
標準偏差	5.42	7.25	6.09	8.39	28.16

・表1を元に各アセスメントについて点数化し、集計した結果。

・平均値: 得点総計/変数

アセスメント I ~ IVにおいて①~⑤の各評価が占める割合

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



好事例（回復と就労可能の両立を達成した方、n=27）では、どの項目においても、①又は②が70%以上を占める。

考察

- 取組 1（支援取組）から -

- 事業場内外の連携様式の図示は、支援に関わるスタッフに情報共有の必要性等、実効的リンクの理解・組立を促す上で有用である。
- 適応障害の事例では、典型的うつ病に比べ疾病性が軽度だが事例性は多大な場合もあり、事業場側の疾患理解が困難な場合がある。
- 産業医が日頃から職員との面談の機会を有し、リワーク事業など事業場外資源を活用できることが、4つのケアを機能させ、両立支援を促進する。
- ある程度疾病性の理解度が高い産保スタッフと外部担当医との連携は円滑な場合が多い。
- 支援側においても、担当医以外に疾病性の理解度が高く併せて事業場の意向を捉えやすい人材が、本取組を拡充するためには必要と考えられる。（保健師、産業Co.、PSW等）

- 取組 2（事業場対象の調査）から -

■産保スタッフの多くが重要と考える「Ⅰ. 医学的知見」の項目は、服薬・症状・診断であり、疾病性に関する担当医からの情報と安全管理にも関わる薬剤の副作用への危惧等と考えられる。

■「Ⅱ. 安全衛生課題」では、「就労に関する意欲と業務への関心」、「段階的復帰等に関する理解と同意」であり、就労意欲の確認が復職支援の始点となる原則が（本調査でも）支持されている。

■「Ⅲ. 個人・生活状況」では「睡眠、覚醒のリズム」、「適切な食習慣」の指摘が強く、衛生対策・不調予防上、睡眠、栄養、嗜癖が重要とされる。

■「Ⅳ 事業場側の懸念」では、「回復と業務遂行能力との相関」、「回復に併せた就労意欲の確認」であり、一旦疾病により減退した意欲の回復と、労働者が根本的に有する就労意欲の双方の確認が就労の前提に挙げられている。

結 語

- 4軸アセスメント項目は、産保スタッフにとって重要な項目と捉えられていることが確認された。
- このアセスメントを用いたモデルケースをさらに蓄積することにより、本取組の手法が普及されると考える。
- 前掲「事業場内外の連携を促進する視点」や不調者の機微な問題への配慮、リワーク事業やEAP等の活用についても産業医育成の要項に盛り込む等の啓蒙が必要と考える。
- 事業場外担当医（精神科・心療内科）側にも、事業場内外の連携を促進する視点等が醸成される必要性を感じる。
- 事業場内外を結ぶ coordinator の育成・確保や、医療経済面の充実化についても、さらなる検討が必要である。